

タイと日本の高校家庭科の教科書

ジャムック パポーン(ギッフ)

チェンマイ大学

教育学部

1 3 1 8 4 0 0 8

日本とタイ高校の家庭科の教科書

1. 序論

家庭科は小学校から高校まで教える科目で、自分の暮らしが世界を創ることができるようにという目標の下で、学習されている。この科目は、衣食住に関する知識、子供を育てること、高齢期を見通すこと、適当な住まいや人々とのつながりなどについて学習する。つまり、この科目を学習することで、現代の社会で周りの人々と一緒に生活を築いていくことができるようになるのである。基礎の生活について学ぶものであるため、重要で必要な科目だと考える。

家庭科は、日本だけではなく、タイにも存在する。しかし、教える内容はあまり似ていない。それでは、両国の家庭科の教科書の中には同じ話題が取り上げられているが、内容の共通点と相違点はどんなものだろうか。また、なぜ内容が異なっているのだろうか。その理由は、社会的や文化的なものなど様々な面から考えられる。本稿では、生活に関する二つの主要な話題として、料理、住宅、伝統的な物、日本の教科書にある話題とタイの教科書にある話題についてを取り上げ、その内容の共通点・相違点を比較・分析し、その理由について考察する。

2. タイと日本高校の教科書の内容

全般的にみると共通の内容は、住まいや料理や被服を着装することや就職のガイダンスである。農業や家電を維持する内容はタイの教科書にあるが、日本では家庭科ではなく技術科にある。

ここでは、タイの高校家庭科教科書2冊と日本の高校家庭科教科書1冊をもとに内容について検討する。

A タイの教科書「アーンバーン高 1-3 用」ソゴソカラー社 (2001)

B タイの教科書「カーンサーンアシーブピアクローブクルア高 1 用」ソゴソカラー社 (2008)

C 日本の教科書「家庭基礎」開隆堂 (2012)

表 タイと日本の家庭科教科書の目次

| タイの家庭科の教科書 | 日本の家庭科の教科書 |
|----------------------------|--------------------|
| A 1. いい家族関係 | C1. 青年期の自立と家族・家庭 |
| A 2. 赤ちゃんの料理 | C2. 子供をはぐくむ |
| A,B 3. 簡単な被服の着装 | C3. 高齢期を見通す |
| A 4. 住まい・住環境をデザインする | C4. 共生社会とふくし |
| A 5. 就職のガイダンス | C5. 食事と健康 |
| B 6. 家族・学校・コミュニティの中 の役割 | C6. 被服の管理とちやくそう |
| B 7. 家・学校を掃除して飾る | C7. 住まいと住環境 |
| B 8. 農業 | C8. 生涯の経済計画 |
| B 9. 家電を維持する | C9. 消費者としての自立と社会参加 |
| B 10. 自分で | C10. ライフスタイルと環境 |
| B 11. 保存食を作る方法 | C11. 自己の生活設計 |
| B 12. 動物を飼う | |
| B 13. エネルギーと資源の管理 | |
| B 14. 伝統的な物を作る | |

2. 1 料理の話題

タイの高校の家庭基礎の教科書では日常料理については教えないが、赤ちゃんのための料理を作る方法について学ぶ。赤ちゃんのための料理は母乳、粉ミルクと離乳食について教える。次に、料理の材料を選ぶ方法、料理の作り方、個々の料理の種類の例、衛生的な料理と環境エネルギーについて考える。高校生の一年生の教科書(B 2008)よるともう一つの話は保存食を作る方法である。簡単にきゅうりの酢の物ととうがらしを乾燥させることを教える。とうがらしはタイ料理にはかかせないもので、よく使う。しかし、きゅうりの酢の物はほとんど食べない料理である。なぜ、教科書に掲載されているかは分からない。

一方、日本の高校の教科書は日常料理について教える。高校は健康的な脂肪摂取のバランスを考える。次に社会的なことで食料の安定的な供給と環境問題を考える。ライフステージによって変わる栄養と食事。また、バランスのよい食事の食事摂取基準と食品群別摂取量の目安について考える。カロリーを考慮して献立を作る。さらに、調理の基礎で食中毒を防ぐこと、切り方、色々な調理方は味つけをすることなどがある。最後は料理の作り方で簡単な日常料理とパーティーのために料理を準備することである。

多くの日本人は健康のことを強調する。したがって、カロリーのことを重要だと考える。日本人の友人にカロリーについて重視するのはなぜかと聞くと、教科書の中に書かれているからだと答える。カロリーについていつから考え初めたかははっきりしないですが、タイでもカロリーについて強調したとしても、日本人はタイ人より健康のことを考えるかもしれない。タイの教科書がよく子供の料理

を教えることはタイ人が早く結婚することを示している。タイの国立統計記録書(2006,2010)は結婚した女性の歳の平均値について 23 才から 22 才になったと述べている。さらに、果物をむく方向も同じではない。例えば、タイのりんごをむく時は半分に切って、もっと小さく切ってからむく。しかし、日本ではりんごを丸ごと皮をむいてから切ることがある。日本は二つのむく方法があるが、タイは一つだけである。つまり、生活の仕方や考え方によって教科書の中の教える内容が違ふことがある。

2. 2 住宅の話題

タイの高校の教科書は省エネルギーな住宅を設計する。風が入るためにどうやってすればいいかということと家を修理することである。また、内装と家の周りをデザインする原理。安全な住まいを考える。飾り物を選ぶ方法である。家の周り(門の前や家の裏)と内装(寝室や台所など)と庭をデザインすること。

日本の話題はライフステージによって住まいがことなることである。高齢者にとって段差をなくす、手すりをつけるなどのバリアフリーの良い点を示す。平面図の読み方を教える。さらに、快適な住まいについて太陽と照明、冬は暖かい・夏は涼しい住まい・室内換気と心地よい音と不快な音のことについて考える。また、安全な防犯対策と地震対策の住まいについて学ぶ。東日本大震災の教訓を勉強して住まいの環境について準備する。

快適な住まいについては双方ともに似ている。太陽と照明、冬は暖かい・夏は涼しい住まいと通風効果がよいことを教えている。しかし、タイは暑い国なので、暖房や暖かい住まいのことは教えない。それで、多くのタイの住まいは広く庭があるので、庭をデザインすることもよく教える。一方、日本は高齢者が多いので、高齢者が住める住まいを学習する。日本にも地震対策の住まいを教える。最近地震が徐々に増えるタイは日本のように地震対策の住まいも重要と考える。すなわち、国の気候や地域や民家によって内容は異なるということである。

2. 3 伝統的な物の作り方の話題

タイの教科書でバナナの葉っぱから作った伝統的な飾り物やお皿の作り方について教える。昔からバナナの葉っぱとタイ人の生活の関係について説明する。最近にもこのものはまだタイの伝統的なイベントや大切な機会によく使う。例えば、ロイガトーンと言うとうろう流しのようなイベントでは、川に浮かべるカトーンはバナナの葉っぱで作る。さらに、葉っぱの選び方から、難しいガトーンを創作するまで教える。他にはバナナの葉っぱが先生の日や仏教についての大切な日やタイの結婚式などにも使う。また、バナナの葉っぱで伝統的なお菓子や料理を包む方法も教える。

日本の高校教科書は伝統的な物を作ることについて書いてない。しかし、料理の話題で和食の作り方を教える。例えば、どんぶり物やほうれんそうのごま和え

などがある。教科書で書いていないが、日本は伝統的な物の作り方は教えないわけではない。様々なウェブサイト調べると家庭科の授業で手縫で浴衣を作った事例があった。聖母被昇天学院中学校高等学校のウェブサイトでは高校3年生は家庭科の授業で手縫で浴衣を作って着ている。

双方の家庭科は伝統的な物を作るということについて教える。日本には浴衣を着ることは、基礎的なことである。夏の祭りで浴衣を着て遊ぶし、温泉旅館でも日帰り温泉でも着る。また、浴衣の着方は着物や袴を着る基本である。一方、タイにはロイガトーンイベントや先生の日が毎年あるし、タイの祭りにもバナナの葉っぱで飾り物を作る。すなわち、双方の家庭科は国の基礎文化について教えるのである。最近の子供は自分の国の文化を知る、分かるために、家庭科の内容で学習する。

3. 日本の教科書にある話題

高齢期を見通す

日本の高校の教科書は高齢期の生活について教えている。高齢期の心と身体の変化の話題で身体機能の変化、変化する能力と変化しない能力と個人差が老齢に至るまでの人生全体が反映されることを説明する。高齢期の生活時間・家族との距離・高齢期の経済・働き方・住まいと地域について教えている。次は、高齢者の生活を支えること・ケアすること・交流することについて学習する。最後は高齢社会を生きること、高齢社会の特徴・高齢期を豊かに生きること・高齢期の福祉について教えている。

日本の国立統計記録書（平成25年）は65歳以上の高齢者の人口について毎年高くなる。この資料によれば日本は高齢社会を示す。日本の教科書を読むと高齢期は人の一生における最後のライフステージとして大切に考える。それで、高齢期をかかわることも高校に教えている。一方、タイの教科書は書いていないが、仏教の教える言葉で親孝行について重んじている。どうであれ、タイの国立統計記録書（1994、2002、2004）は高齢者が残って一人で生活する人口は3.6%、6.3%、7.4%で徐々に増えている。タイは日本のように高齢者について教えるなら、高齢者が残ることによって生じる問題が減るかもしれない。

4. タイの教科書にある話題

4.1 農業の話題

家庭科の教科書の中で植物を栽培すること。栽培の種類・種で栽培すること・種ではない方法栽培すること・植物の育て方・無農薬と収穫について教えている。さらに、学生は本当に植物を栽培してみる。教科書に書いてある植物の栽培の目的は農業について仕事をするためである。また、植物の種類を保護すること・新しい種類を発展することと経済的についてのことにも農業を教える目的である。タイの専業は農業だから、経済的に家族だけでなく国経済にも影響する。

家庭科の教科書で農業について日本では教えない。「土百姓は国の背骨」というタイの有名なことわざがある。昔、大勢のタイ人は農業をしていた。最近でも、最も多い仕事は農業といわれている。タイでカセトサードという農業の専門の大学があり、タイの文部省の大学のランキング（2006）によるとカセトサード大学のランキングは9番である。農業はまだ青年の中で人気がある。つまり、国の専業が農業であるタイは家庭科の中で基礎の生活について教えている。しかし、日本の専業は農業ではないので、家庭科の教科書には書かれていない。

4. 2 動物を飼う

動物を飼う話題を書いたが、ペットではなく売るために飼う。動物を飼う前に必要なこととして資金・飼う道具・場所・市場分析・よく売れる動物の種類について教えている。さらに、三種類の動物に分けて動物の餌について教えている。例えば、飛べる動物は鶏、アヒルと鶉で小さいサイズの動物は羊と豚で魚は鯰、カイヤンとナイルティラピアである。また、学生はどんな動物でも自分で飼ってみるという活動がある。目的は社会の中に就職の可能性があるのであるために教えている。

昔から、動物を飼うことは普通のことである。そのとき、飼う目的は家族だけで食べて、残ったら売ることである。他には、賭け事のことでも鶏を飼う。鶏の賭け事では鶏が2羽で戦って、勝つと思う鶏を選んで当たったらお金をもらう。そういう考え方がまだ残っている。それで、都会でも田舎でもまだ鶏を飼うことが普通に見られる。山岳民族にも豚とか家の庭に飼うことがある。私の家族もアヒルを飼っている。いつも、アヒルの卵を食べて残ったとき商家に売る。このことから、タイの家庭科は自分で生活ができることではなく簡単に収入を受け取れることも教えている。

4. 3 タイの王様の教えの影響

大勢のタイ人はラーマ9世の王様のことを称賛している。ラーマ9世にはたくさんプロジェクトと教える言葉がある。王様は1994年に「足るを知る経済」英語で「Sufficiency Economy」を初めて教えた。この理論はどうやって最小限のお金で自分で満足して生活するかについて教えている。自分の土地があれば、10%で住まい、30%で営農、30%で果物と野菜を植えると30%で池をつくれる。使わない物はどうやって使える物になるかや再生可能エネルギーなどを教えている。今年2014年になったが、この理論はまだ教えられている。タイの高校家庭科の教科書はエネルギーと資源の管理で動物の糞や死んだ動物・野菜や農場から下水でバイオガスを作る方法を教えている。太陽で唐辛子や魚を焼く道具の作り方も教えている。住宅の話題でも省エネルギーな住宅でどうやってエネルギーをたくさん使わないで生活するかも教えている。つまり、タイの家庭科の教科書が王様の教えるアイデアを言葉で教えているともいえる。

5. 結論

本稿では、タイと日本の気候や環境や生活などの違いを考えながら、日本の高校の家庭科とタイの高校の家庭科について教科書で教える内容を比較した。その結果、自分の社会に適した生活をするために、内容は教科書の夫々国の生活を考えて工夫されていることが明らかになった。

家庭科の内容も自分の国の文化と国の考え方を表す。料理の話題は生活の仕方や考え方によって内容が違ふ。住宅の話題は国の気候や地域や民家によって内容が違ふ。伝統的な物の作り方の話題は双方とも基礎文化について教えている。日本の社会の特徴によって高齢期を見通す話題が書いてある。タイの専業によって農業の話題についゑ書いてある。タイの教科書は簡単に就職ができるために動物を飼う話題を教える。王様の教えるアイデアとタイの教科書の内容は考え方が同じである。

家庭科の科目の目的については、日本とタイは似ている。双方とも、常に変化して行く社会で暮らしの生活の技能を持つことを目指している。家庭科で学ぶ知識や技術は、新たな生活の様式の中で使えるものである。また、総合的に捉えられるものである。それに加えて、人々と一緒に生活を築いていくことが必要なので、家庭科は両国の人々にとって不可欠な科目だと考える。

今回のレポートの参考文献

2012 年度用日本の家庭基礎の教科書(開隆堂)

2008 年のタイの高校の一年生の家庭基礎の教科書「カーンサーンアシーブピアク
ローブクルア高 1 用」(チチウット・クルカニット・パッサナン・タウエポ
ン・ラッタナルック・パッサリとサニー) (ソゴソコロードプラーウ社)

2001 年のタイの高校の家庭基礎の教科書「アーンバーン高 1-3 用」(ワッタナパ
ミッシンでモンラット・アルニー) (ソゴソコラー社)

2010 年のタイの国立統計記録書

(http://service.nso.go.th/nso/web/article/article_05.html)

2013 年の聖母被昇天学院中学校高等学校

(<http://www.assumption.ed.jp/jsh/news/20130702073524.html>)

ガセードサード大学

(<http://www.ku.ac.th/web2012/index.php?c=adms&m=mainpage1>)

1996 年の大学のランキング(<http://unigang.com/Article/9918>)

2005 年の ASTV 主事オンラインのニュース

(<http://www.manager.co.th/Qol/ViewNews.aspx?NewsID=948000005718>)

2012 年総務省統計局(<http://www.stat.go.jp/data/topics/topi721.htm>)

Office of the Royal Development Projects Board

(<http://www.rdpb.go.th/rdpb/front/SufficiencyEconomy.aspx?p=4>)